

トピックス 第12回 世界鉄道研究会議 WCRR2019を開催しました

2019年10月28日から11月1日にかけて、東京国際フォーラムにおいて、「カスタマー・エクスペリエンスを高めるための鉄道研究」をテーマに第12回世界鉄道研究会議 WCRR2019を開催しました。

WCRR (World Congress on Railway Research) は、国際鉄道連合 (UIC)、フランス国鉄 (SNCF)、ドイツ鉄道 (DB)、イタリア国鉄 (Trenitalia)、英国鉄道安全標準化機構 (RSSB)、米国運輸技術センター (TTCI) および公益財団法人鉄道総合技術研究所 (以下、鉄道総研) からなる組織委員会によって運営されている国際会議です。

第12回となる本会議は20年ぶりの日本開催となり、世界37か国から海外424人、国内569人の計993人が参加しました。「Railway Research to Enhance the Customer Experience」- カスタマー・エクスペリエ

ンスを高めるための鉄道研究」をテーマに、以下の三つのプレナリーセッションと、10のオーガナイズドセッション、8分野60の一般セッションが行われました。このうちオーガナイズドセッションは今回初めて企画され、世界各国で注目度の高いテーマについて活発かつ深い議論を促進することを目的として、当該分野の第一人者を座長としてお招きし、高い統一感と発表形態の自由度を特徴に44件(日本から10件)の研究発表が行われました。一般セッションでは口頭発表167件(日本から44件)、インタラクティブポスターセッション142件(日本から59件)の研究発表が行われました。また、国内外の126社・団体にスポンサーとなっただき、鉄道技術に関する展示会を開催しました。

会議の内容などは本誌3月号にて特集いたします。

①プレナリーセッション

1. カスタマー・エクスペリエンスを高めるための鉄道運営者の役割
2. 鉄道価値向上のための鉄道産業の貢献
3. 将来の鉄道のための研究開発

②オーガナイズドセッション

- 「鉄道の将来予測：国際協力の観点から」、 「リアルタイム鉄道運用への意思決定支援」
- 「本線における自律運転」、 「革新的な製品開発のための国際認証」
- 「営業列車を用いたモニタリング/設備の診断と状態監視保全」
- 「仮想的な方法による地上・車上測定の統合」、 「予防保全のためのデジタル技術」、 「磁気浮上式鉄道」
- 「鉄道開発のグローバルビジョン」、 「研究から利益まで：革新をどのように迅速化するか」

③一般セッション(8分野)

- 「速達性・機能性及びサービス品質の向上」、 「経済・政策及び計画」、 「持続可能性」、 「安全および防災」
- 「鉄道車両」、 「インフラストラクチャー」、 「境界領域」、 「磁気浮上式鉄道および新たな交通システム」



プレナリーセッション1